



日本ICOMOSフォーラム  
 英仏版の比較検討から読み直す  
 ベニス憲章の意義  
 ～その採択から60年を迎えた日本の実践～

文化遺産の保存と修復の国際規範として1964年に採択されたベニス憲章（記念建造物および遺跡の保全と修復のための国際憲章）は、文化遺産が多様化し、SDGsの文脈に位置付けられ、文化による国際交流が広がる等する中で、益々重要性を帯びています。しかし、日本ではあまり良く知られていません。

日本ICOMOS国内委員会憲章小委員会では、2022年10月よりベニス憲章を仏語版（原文）と英語版とで読み直し、日本語訳のわかりやすさの向上を図る作業を行ってきました。

既存の日本語訳は英語版からのものです。今回、仏語版から日本語訳を作成・比較すると、「ベニス憲章は厳しいもの」とするこれまでの認識とは異なり、その実践は固有の文化や伝統の枠組みの中で各国に委ねられていることがうかがえました。

フォーラムでは、憲章小委員会の作業成果を報告し、今後の日本におけるベニス憲章の意義とその実践について考えます。是非、御参加下さい。

お申し込みはこちらから  
 （定員になり次第締切ります）

<https://forms.office.com/r/yBV9bbx00N>



2024年

参加無料

8月31日（土）

13時30分～16時40分  
 13時より受付開始

京都アカデミア  
 フォーラムin丸の内  
 新丸ビル10階 千代田区丸の内 1-5-1



三菱UFJ信託ビル向い、駐車場入口側オフィスエントランスから建物にお入りください。

主催：日本ICOMOS国内委員会  
<https://www.icomosjapan.org/>

# プログラム（一部に変更が生じる場合があります）

時間	内容等（御氏名並記の場合は五十音順、敬称略）
13:30-13:35	開会 総合司会：川津彩可
13:35-13:40	開会挨拶（藤井恵介）
13:40-13:55	趣旨説明（益田兼房）
13:55-14:30	作業成果報告（佐藤桂、内藤秋枝ユミイザベラ）
14:30-14:45	情報提供ーベニス憲章採択60年における国際社会の議論について（稲葉信子）
14:45-15:00	《休憩》
15:00-16:30	ディスカッションーベニス憲章前文第二段落（仏語版）を中心としてー 進行：下間久美子、脇園大史 コメンテーター：稲葉信子（筑波大学名誉教授） 吉田鋼市（横浜国立大学名誉教授）
	(1) ベニス憲章の今日的意義について 話題提供① 近現代建築の保存・再生・活用事業における憲章の有効性（田原幸夫） 話題提供② 国際的な視野から見た日本の木造建築の特徴と課題（A.マルティネス） 話題提供③ 国際協力における相互理解の構築（金井健） 討議 (2) 日本における今後のベニス憲章の実践について 話題提供④ 保存修理技術者の育成の視点から（野尻孝明） 話題提供⑤ 歴史的な建造物修理の市場の拡大と保存修復の国際倫理（矢野和之） 話題提供⑥ 建造物修理と史跡整備の横断的な理念形成の模索（海野聡） 討議 (3) コメンテーターのコメント
16:30-16:40	統括・閉会（田原幸夫、藤井恵介）

## <参考> ベニス憲章前文第二段落の英仏版比較<仮訳>

【英語版】古建築の保持や修復を導く原則は、国際的な基盤の上で合意し、まとめることが重要である。その際、各国は、それを自国の文化や伝統の枠組みの中で責任を持って適用することとなる。

【仏語版】歴史的な建造物の保存と修復を導くべき原則は、共同の作業でまとめ、国際的なレベルで文書化すること、また同時に、その適用は、固有の文化や伝統の枠組みの中で、それぞれの国に委ねられることが、極めて重要である。

## 第一小委員会（憲章小委員会）ベニス憲章等の日本語訳検討ワーキング・グループ（WG）

藤井恵介（憲章小委員会主査）、益田兼房（WGリーダー）、田原幸夫（WGファシリテーター）、海野聡、金井健、川津彩可、佐藤桂、清水重敦、下間久美子（WGマネージャー）、周嘯林、内藤秋枝ユミイザベラ、野尻孝明、増井正哉、Alejandro Martínez de Arbuló、矢野和之、脇園大史